

# 入試改革「実施方針」 を正確に読む！

## 【Part.3 基礎診断】ポイントを箇条書き！

旺文社 教育情報センター 29年7月31日

文科省は今月13日、入試改革に関わる一連の資料「高大接続改革の実施方針等の策定について」(いわゆる「実施方針」)を公表した。これまで議論を重ねてきた入試改革がいよいよ本決まりとなり、33年入試での実装へ向けて動き出したことになる。

高校・大学現場ではまず、これらを正確に読み込むことが何よりも必要だ。そこで本記事では、実施方針の内容を箇条書きにしてまとめた。全3回に分け、各記事はそれぞれ以下の資料を扱っている。

[【Part.1 共通テスト】](#) 「大学入学共通テスト実施方針」

「大学入学共通テスト実施方針策定に当たっての考え方」

[【Part.2 各大学個別入試】](#) 「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」

[【Part.3 基礎診断】](#) 「『高校生のための学びの基礎診断』実施方針」

本記事では Part.3 として、基礎診断について見ていく。

### 全体

- ・目的＝「高校生に求められる基礎学力の確実な習得」と「学習意欲の喚起」。
- ・基礎学力の定着に向けた PDCA サイクルの構築に役立てる（設置者は人事、予算、研修等にも活用）。
- ・入試、就職での利用は当面見送り。
- ・テストは民間が申請、国が認定。複数のテストの中から高校または設置者が選んで利用（必須ではない）。
- ・「29年度＝認定基準策定」「30年度＝認定」。  
※別途、文科省 WG の資料では「31年度＝実施」。民間側のテストの準備と、高校側の都合がつけば、一部30年度からの実施も想定している模様。
- ・具体的な内容等は、これまでの検討を基本に今後策定。以下はその例示。
  - ▶ 出題科目は国語（国総）、数学（数Ⅰ）、英語（コミュ英Ⅰ）。

